

『新型ホームドア導入検討の手引き』の概要について

本書作成の目的

昇降式など新型ホームドアの普及促進のため、鉄道事業者等の行う導入検討に資することを目的として、これまでの技術開発過程で蓄積された知見・ノウハウをとりまとめた「新型ホームドアの導入検討の手引き」を作成した。

本書の内容

1. 本書で紹介している新型ホームドア



○昇降ロープ式ホーム柵 (支柱伸縮型)



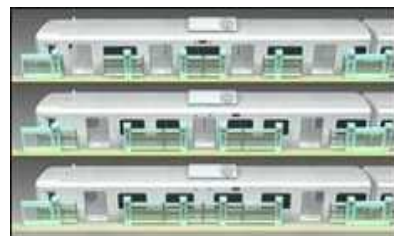
○昇降ロープ式ホームドア



○昇降バー式ホーム柵



○戸袋移動型ホーム柵



○マルチドア対応ホームドア



○スマートホームドア®



○軽量型ホームドア



○大開口ホーム柵

2. 主要な検討項目

- | | | |
|----------------------|-----------------|----------------|
| (1) 車両ドア位置等を踏まえた設置方法 | (3) ホーム端の見通しの確保 | (5) 乗務員による取扱い等 |
| (2) ホームへの据付工事など施工方法 | (4) 安全対策上の措置 | (6) 列車編成長等の判別 |

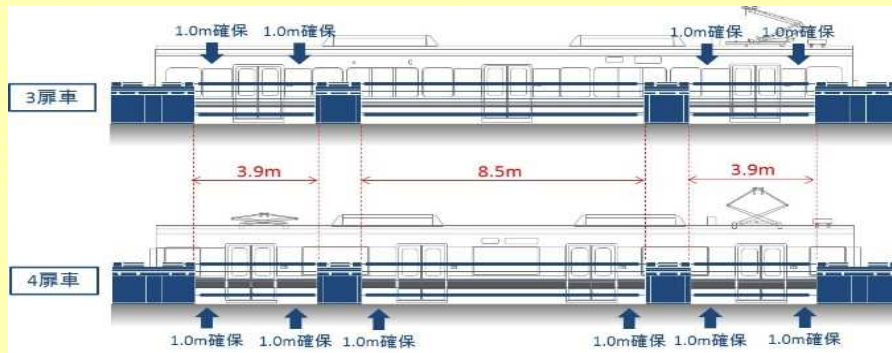
3. 留意事項

様々な利用者の意向把握と反映(視覚障害者等からの要望と対応など)

車両ドア位置等を踏まえた設置方法に関する検討

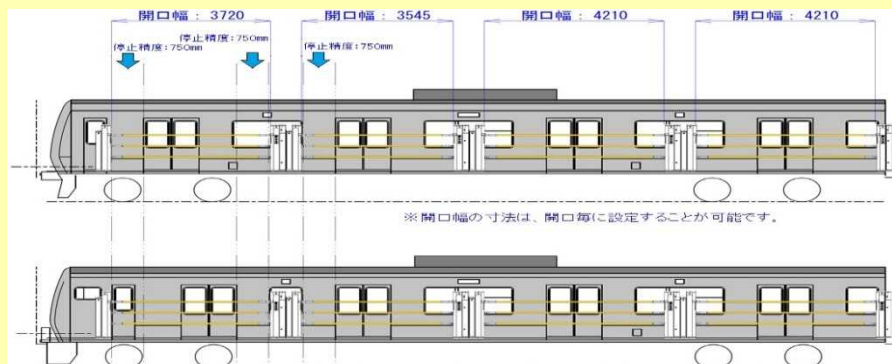
六甲道駅:昇降ロープ式ホーム柵(支柱伸縮型)の例

3ドア、4ドアが混在するケースの設置例であり、ドア位置と停止精度(ここでは±1m)を踏まえての設備配置を検討している。



昇降バー式ホーム柵の例

車両のドア数は一致しているものの、ドア位置が異なる列車が混在するケースの設置例であり、様々な開口幅を組み合わせた配置を検討している。

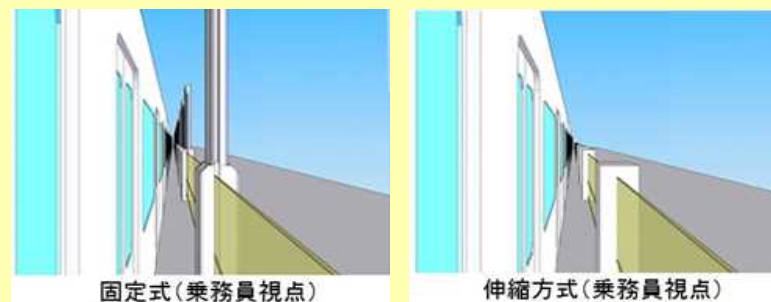


視覚障害者等からの要望と対応(配慮事項)

視覚障害者や車いす利用者、高齢者を含む全ての利用者が、安全で安心して利用できるよう、その意向に十分配慮しながら、幅広い観点から必要な検討を行うことが重要である。

ホーム端の見通しの確保に関する検討

昇降型のホームドアは、従来型に比べて支柱や上昇時のバー等が支障となってホーム端の見通しを悪化させるおそれがある。そのため、曲線ホーム等ではホームの安全監視上の支持機能としてモニタカメラ等の活用を検討する必要がある。



安全対策上の措置に関する検討

新型ホームドアは、従来型とは違った構造や可動方式を採用しているものもあるため、挟まれ防止対策、近接防止対策など、その特性を踏まえて安全対策を検討する必要がある。

